体験通し自身を育てる

観光型から体験型へと移行しつつある中学校の修学旅行。学窓を離れた体験先で待っている出会いは、日常と異なる社会の一面を生徒たちに垣間見せる。それは、多感な時期に新鮮な驚きを与えるとともに、時にはエポックを画す自己発見にもつながる。印象が鮮烈であればあるほど、体験をさせる意味や目的が重要なカギとなる。体験型修学旅行は、生徒、学校、受け入れ地が三位一体となってつくり上げるもの。学校が求め、実施している体験型旅行の実態をリポートする。

横浜市立 西谷中学校
奈良、京都　2泊3日
11年5月　実施

定番旅行先でも生徒の表情には新鮮な感動があふれる（東寺）

人口360万人を超す横浜市。ミナト・ヨコハマのイメージがある一方で、市の郊外は1950年代末から開発が進んだベッドタウンの一面も見せる。そうした地域の1つに、多摩丘陵南端と三浦丘陵北端の境を流れる帷子川に沿った一角がある。横浜市立西谷中学校（三宅一彦校長、在校生676人）は、南側丘陵の斜面を登り切った先にある。開校は59年（横浜市立保土ヶ谷中学校西谷分校、62年独立開校）で、戦後のベビーブーマー団塊世代が、中学へ入学する時期と符合する。

今年の修学旅行は、学校として50回目の送り出しとなった。実施時期は毎年春、クラス替えを終えて3年生になったばかりの生徒が対象だ。5月29日から2泊3日の日程で実施され、旅行先は奈良、京都だった。

横浜市立中学校の中には、九州方面への修学旅行もみられるが、同校は関西方面を選択。理由は極めて明快だ。「修学旅行で行っておかなければ、日本の古都の歴史を体感するチャンスを逸してしまう恐れがある」（水野良彦教諭）。「大人になって行く機会があっても、中学生のような学ぶ姿勢で対象を見ることは難しい。その意味では、何としても修学旅行で東大寺の大仏には接しておいてほしい」（松尾みのり教諭）との思いが、学校側にはあった。

水野良彦教諭

修学旅行の事前学習は2年時から行われる。生徒の中には「何でこんなに早くから」の思いもあるようだが、それは実際の修学旅行で納得へと変わる。自分たちで計画し練り上げてきた構想が、現実の場面で確かに生きてくるからだ。

3日間の行程のうち、1～2日目は班別の自主研修。横浜を発って午前10時過ぎに京都へ着くと、その先は班別行動だ。目指すは奈良の東大寺大仏殿。2日目も同様に奈良から京都を目指す。その行程で頼れるものは、自らまとめた行動計画しかない。おまけに、行動の単位となる班のメンバー構成は、3年時のクラス替えで2年時と違う。事前学習で学年全体としての共通認識が培われていないと、クラス替えから間なしの修学旅行には対応できない。例えば「見学先の決定や規定の時間に集合できるかどうかは、修学旅行用ガイドブック（『乗る&歩く京都編』）を皆で確実に読めるようにしないと、計画が作れない」（松尾教諭）と示す。

また、1、2年時の校外学習、自然教室、鎌倉遠足など一連の学校行事は、修学旅行によって集大成される事前学習の一環とも位置付けられている。生徒は「同じ大仏でも鎌倉と奈良でずいぶん違う」ことを、知識だけでなく実感として確かに感じとってきた。

修学旅行に対して「とくに目新しいことをしているわけではない」（水野教諭）という。関心を抱いた場所を見学し、自ら何かを感じとる。学校とは違う環境の中でルールを守って行動する。それらは、修学旅行の原点でもあり、肩肘を張らずに淡々と遂行している。

「4回の旗振り（1、2年時の送迎）をしてきたけれど、自分が振られる側になって感激した」と生徒は言う。1年時から修学旅行への関心を培い、それが学校の伝統にもなっている。メモリアル行事として意義深いものを宿しているのが、同校の修学旅行だった。

在校生や保護者による見送り（上）と出迎え

修学旅行…余話

生徒たちの間では「旗振り」とも呼ばれている修学旅行の見送りと出迎え。「いつ、誰が始めたのか定かではない」（松尾教諭）という。1、2年生や保護者が校舎の屋上に集まり、横断幕や旗を振って修学旅行生の乗った東海道新幹線へ向けて合図を送る。列車に乗っている修学旅行生は、進行方向左側の学校に面した窓から、一斉にカメラのフラッシュを焚いてこたえる。

それは、東海道新幹線が新横浜駅を後に、西へ旅立って間もなくの光景だ。列車が小さなトンネルを抜けた先の、開けた辺りが西谷の町。学校のある小高い丘の上からは、新幹線の線路を望むことができる。直線距離にすると300～400㍍。旗と光で絆を確かめ合うことのできる距離だ。

1年の時から培われるメモリアルな修学旅行

新横浜駅での出発式

初日のチェックは奈良公園で

座禅のあと法話を聞く（天竜寺）

日本の文化「お薄」を体験

海老名市立 大谷中学校
京都、滋賀県日野　2泊3日
11年6月　実施

農家の指導で農作業に親しむ

何を体験したかでなくどう変わったかが大切

防鳥ネットの下での農作業

作業の合間にコミュニケーションも

慣れぬ食事作りに悪戦苦闘

神奈川県海老名市立大谷中学校（漆原肇校長、生徒数568人）は1980年4月、海老名中と有馬中から分離、独立してできた、市内5番目の中学校だ。設立以来、地域から水田を借りて稲作体験学習を続けているというユニークな校風を持つ。教育目標は「豊かな心を目指し、よく学び、自己を磨き、地域や社会とふれあう生徒を育成する」。

大谷中は毎年6月に、1年時は野外教育活動（2泊3日）、2年時は校外学習を実施しており、3年時の修学旅行（2泊3日）は一連の行事の集大成と位置づけている。

3年生（在籍数187人）の今年の修学旅行は京都観光と琵琶湖の南東に位置する滋賀県日野町での田舎体験で、6月4～6日に実施。「与えられたプログラムの消化ではなく、生徒自らが考え行動することによって、課題を乗り越える取り組みをさせること。また、1学年の活動の目的『自分を知る』からスタートした自律の精神の育成の最終段階として、『ともに自分を磨く』につながる活動が狙い」と河毛利之教諭。

河毛利之教諭

日野町は「三方よし！近江日野田舎体験」プログラムを作っている。農村生活体験の受け入れ協力民家は150軒に上り、600人の受け入れが可能という。「プログラムの根底には『何を体験したかではなく、子供たちが何を感じ、どのように変わったかが大切』という考えがあり、当校の目的と同じだったことが選定の決め手になった」としている。

参加した生徒は172人で、男女ほぼ半々。主な行程は、4日朝に海老名市役所に集合し、バスで小田原駅に。新幹線に乗車し、京都駅着。男女混合の班（7、8人）で活する。今回の民泊先は49軒だった。河毛教諭は「全くの他人との生活を体験と交流。6日は昼頃に離村式を行い、バスで来た原駅へ。新幹線で新横浜駅着。バスで海老名市役所へ向かい、午後7時頃解散となる。ちなみに、生徒個人に携帯電話は持たせない。

日野町では男女に分かれ、1班3、4人の割合で1軒の宿に泊まり、生家庭が出迎え。5日は体

ホストファミリーと和気あいあい

嫌がる生徒がいるのは事実。わがままは言えず、気をつかわなければならない。おまけにその家のルールに従い、布団の上げ降ろしや食事作りなど〝農村の日常生活〟を体験することが目的なので、生徒は自ら行動せざるを得ない」と話す。

体験プログラムには田んぼ作業、畑作業、里山整備、食事作りなどがある。例えば、畑作業は各家庭の畑の草取り、野菜の収穫作業、片づけに加え、収穫したものをその日に食べるという食育を兼ねたプログラムとなっている。

馴れぬ食事作りや農作業に悪戦苦闘する生徒だが、「段々と顔つきも変わり、いい笑顔になる。最初は不安がっていた生徒も最後は別れを惜しみ、号泣する姿も見られた」と河毛教諭は言う。

ある女子生徒は修学旅行後の感想をこう書いている。

「全く知らない人の家に2泊することは心配だったが、（受け入れ先の人は）とてもフレンドリーだった。離村式では泣いてしまった。今回の旅行で人の温かさを知ったような気がする。それに少しだけ人見知りも克服できたかも。旅行に行って本当に良かった。この体験を生かして残された学校生活を頑張っていきたい」。

旅行費用は5万円。旅行業者は近畿日本ツーリストだった。旅行会社は原則入札で決めるが「頻繁に顔を見せ、こちらの狙いや意図を理解して、お手伝いいただける業者にお任せしたい」と言う。来年は北海道を予定。

海老名市はこれまで、京都市の商店街で食料品店での臨時店員体験や、宮城県東松島市での漁業体験などを実施しており、京都の体験はユニークな試みとしてマスコミにも取り上げられた。

河毛教諭は言う。「生の体験を通して、そこに暮らす人たちの生き方や文化、作ることの大変さ、生活することの素晴らしさを学び、人の中で人とともに生きる力をつけてくれれば」と。

映画村の体験学習
本物と自然と昔にこだわる

清水焼絵付け体験 ＜【素焼】陶芸作家の岡本和芳さんの指導により、生地に絵付けをしていただきます。【京焼】白色系に焼き上げた器やグラスに3色のカラーを使って絵付けをしていただきます。

ドラマ映像講座　シナリオ(台本)を教材にコンテづくりを解説。次にそのコンテをもとに撮影したサンプル映像をご覧いただいて、ドラマの映像づくりのひみつを学んでいただきます。

殺陣（たて）講座　東映京都撮影所の殺陣師が立ち回りの形をお教えします。もちろん安全性は十分配慮しています。木刀を使って時代劇を体験してください。

京扇子・京うちわ手描き体験　舞踊や茶道にも欠かせない扇子やうちわは京都の伝統産業のひとつです。専門家の指導のもとにオリジナルの絵柄を描いて楽しんでください。

万華鏡手づくり体験　素朴な風合いの「万華鏡」づくりを、創業明治26年の老舗和紙工房とのコラボレーションにより実現！色とりどりの千代紙を選んでオリジナルの「万華鏡」づくりを制作体験いただけます。

きもの着付け体験　京都は西陣織などの和装産業が盛んな都市です。きもの姿で映画村の江戸の町を歩いてみませんか。着付けのスタイリストがお手伝いいたします。

本格的時代劇扮装体験　メイク、結髪、着付けまで東映のベテラン専門家がお手伝いし、映画やテレビに出演するスターと同じ本格的な時代劇扮装をお楽しみいただけます。

※体験学習は全て有料・要予約となります。

体験学習のパンフレット・DVDのご請求、お問い合わせ、お申し込みはこちらまで!
TOEI KYOTO STUDIO PARK
東映太秦映画村
http://www.toei-eigamura.com
〒616-8586　京都市右京区太秦東蜂岡町10番地
お問い合わせ ✆075-864-7716 ナビダイヤル ✆0570-064349 催し物ガイド ✆075-864-7788
営業時間 /9:00～17:00(12月～2月は9:30～16:00)
9:00～18:00(3月15日～9月15日の土・日・祝)　休村日 /2012年1月13日～17日

「高校教育特集2012春号」は、来年4月7日号掲載予定です。

編集内容（予定）①今、教育旅行に求められている内容とは（教育旅行の現実と理想。単なる体験で終わらない、教育効果のある体験学習プログラム。成果をどこで測定するか、など）②ユニークな教育旅行の事例（高校の協力を得て担当教諭や参加生徒の声を聞く）③体験型修学旅行で注目される受け入れ地域（旅行地としての地域性とそこでの体験プログラムを紹介）④教育旅行に関する調査データなど

※中学校教育旅行特集同様、全国の公立・私立高校5,000校にも配布します。

問い合わせ先、㈱観光経済新聞社・教育旅行担当
〒110-0008　東京都台東区池之端2−7−17井門池之端ビル　TEL.03−3827−9800　FAX.03−3827−9730　info@kankokeizai.com

しずおか体験教育旅行 小学生・中学生・高校生対象
shizuoka taiken kyouiku ryokou program
プログラム

「海・山・川」の大自然の恵みに囲まれた静岡市で、伝統文化と自然の宝庫にどっぷり浸ってみませんか。

政令指定都市「静岡市」は本州のほぼ中央に位置し、古代より産業・流通の中心として、歴史上にも名を連ねる多くの伝統文化があります。
静岡市内各地区の「ほんもの体験」を通じて、静岡で「できた！わかった!!感動!!!」をぜひ感じてください。体験学習の地として、安心してお越しいただける都市静岡で、みなさまのお越しを心よりお待ちしています。

しずおかの自然・産業・施設・伝統文化を
まるごと体験!!

○「子ども農山漁村交流プロジェクト」で静岡市が2011年度よりモデル地区に指定されました。
○「第8回オーライニッポン大賞」で審査委員会長賞を受賞！
○祝！久能山東照宮 国宝指定

日本の中心に位置する、自然豊かな地・静岡市
黒潮おどる太平洋と、霊峰富士から南アルプスに連なる山々に囲まれ、温暖な気候でとてもすごしやすい地です。

お問い合わせ・資料請求は
しずおか体験教育旅行事務局　〒424-0901 静岡県静岡市清水区三保2737 東海大学社会教育センター内　TEL 054-334-7711　FAX 054-334-9769
http://www.shizuoka-shimizu.info　E-mail:taiken@shizuoka.tnc.ne.jp